



おじいちゃん その 語り



工藤 千木くん
(十三小・6年)

もうすぐ中学生になるんだから、物事を自分の判断でするようになってほしい。
素直な、いまの気持ちを忘れず、よい友だちをつくり、みんなと仲よく頑張ってほしいナァ
ひとつこと ……。
(権一さん・73歳)

今月の主な記事

- 上ノ国町との友好町村締結……………2～3
- 田辺サミット開催……………4
- 受賞おめでとう
白川さんに勲五等瑞宝章……………5
高橋さんにグリーン賞
- ゲートボール大会……………6
- 人権週間
特設人権相談所開設……………7
- 安藤物語……………8
- おしらせ……………9
- 健康への道……………10
戸籍の窓

何かが一番好きです。
おじいちゃん、これからも元気でお宮のお仕事がんばって下さい。

正月には徹夜で、仕事をしています。その徹夜のつかれもあってか、のぼり台にのぼっていたら、まうけておちて足をけがしてしまいました。あと足のほかに前立せんもおかしくなり返いんがおくれています。

何か月ふりかに返いんして来たおじいちゃんの顔を見て、これで家族全員そろったなとつくづく思いました。それからというもの、おじいちゃんはおのけがや病気がうそのように元気になりました。

僕のおじいちゃんは、お宮の宮司をしています。そのため、いつも、おふだを作ったじい祈とうに行っています。

僕の
おじいちゃん

相互交流深める 新たな旅立ち

歴史がとりもつ縁

使節回訪れ盛大に調印式

中世の豪族安東氏が取りもつ縁で、北海道上ノ国町と本村が友好関係を結ぶことになり、十一月六日午前十時三十分から、本村「あすなるホール」で調印式を行いました。



両町村の相互交流をはかり友好親善を深めようと締結書に調印しました

約七十年前前に安東氏が移り住み、本村と盛んな交流があったとされるノ国町では、今年開基八百年を迎えることになり、それを機に海峽を越えた文化交流を復活させようとして、友好町村の締結を申し入れてきました。

上ノ国町から本村へ友好町村締結の旗が持ち掛けられたのは今年四月二十日。森定蔵町長、古館常弥町議会議長ら町幹部が本村を訪れ、三重貢村長に意向を伝えました。

その後、上ノ国町の商工会観光協会、文化財保護審議会委員らが本村を訪れ、山王坊遺跡や唐川城跡、福島城跡など、安東氏ゆかりの遺跡巡りをし、友好親善を深めてきました。

本村でも臨時村議会を開いて、両町村の相互交流をはかることを決め、三重貢村長、工藤武則村議会議長一行らが上ノ国町を訪問して、友好町村締結への話し合いをしてきました。

調印式には、市浦村側から三重貢村長、工藤武則村議会議長ら二十七日、上ノ国町側からは森定蔵町長、古館常弥町議会議長、議員、商工会、まちづくり青年会議所の代表で構成する使節団一行二十三人が来村、出席しました。調印に先立ち、両町村長がこれまでの経過や現状を述べたあと、「青函インタープロック交流圏構想や、青函半島交



両町村から約60人の代表が出席して挙行された友好町村提携調印式（あすなるホール）

流会議が発足し、道南地方と青森県との交流がすめられていくのが、安東氏の歴史文化に深くかわりのある両町村が友好の契りをつ結ぶことになったことは大きな喜びである。友好の締結が、両町村にとって大きな心のかけ橋となり、相互交流を通じ地域の活性化や地域の特性を生かしたまちづくりにつながれることを願う」とあいさつ、両町村長、議長が友好町村締結書に調印し、がっちり握手を交わしました。

このあと、両町村長がそれぞれ、町村旗を、両町村議会議長が記念品の交換をしました。

来賓として出席した原田一實県議会議長は、「安東氏の縁を機軸として友好親善関係を提携することは大きな喜びである。新たな交流により、地域が有する資源を十分生かしながら、相互の補完、連携を深め、個性豊かな魅力あるまちづくりと、両町村が教育を

上ノ国町と友好町村締結 海峡を越え 青函新時代の幕明け



締結調印後握手しました



高町村長が、町村旗の交換をしました



記念品の交換をする高町村議会議長



芸能発表会に特別出演した上ノ国町有志



上ノ国町長ら使節団一行



「しらふ」の「しらふ」で開かれた交流ハロウ

化、産業経済等において一層交流が深まることを願う」と、あいさつしました。

また、北郡町村会長の木村章一、板柳町長は「東日流安東氏と深くかかわりをもった両町村が、津軽海峡を越えて相互交流をはかれることは、青函新時代の幕明けにあつた、新しい新たな旅立ちである」と、お祝いの言葉を述べました。

調印式後の昼食会では、友好親善を深め合い、午後からは村コミュニティセンターで開かれている「あすを拓くふるさとまつり」会場に移動、本村の郷土芸能を観賞したほか、上ノ国昔踊り保存会による「イヤサカ踊り」などを披露し、会場から大きな拍手が送られていました。

友好町村締結書

昭和六十三年十一月六日

青森県北津軽郡市浦村
市浦村長 三重 貢

北海道檜山郡上国町
上ノ国町長 森 定 哉

北海道磯谷郡古館町
古館常 常 弥

市浦村と上ノ国町は、今をさるる八十余年前、東日流安東氏と深くかかわりを持つ地であり、その絆を基として、互に友好親善の親善関係を保持するため、今後両町村は、教育文化、産業、情報など各般に亘り交流を進め、二十一世紀へむけての相互繁栄と住民の生活水準の向上をめざして、ここに友好町村としての協定を締結する。



調印式後、記念撮影をしました。
右から原田一實県議会議長、工藤武則村議会議長、三重貢市浦村長、森定哉上ノ国町長、古館常弥町議会議長、木村章一北郡町村会長(板柳町長)

藤原三代とゆかりの市町村が集い

田辺サミット開催

地域の活性化を語り合う

今後は民間の友好親善も

奥州平泉藤原三代とゆかりの深い八市町村、和歌山県・田辺市、福島県いわき市、山形県・酒田市、岩手県・平

泉町、岐阜県・白鳥町、山形県・最上町、宮城県・栗駒町、青森県・市浦村)が一堂に会しての「田辺サミット」が十月十五日(土)、十六日(日)の二日間にわたって開かれました。

昨年、岩手県平泉町で開催された「第一回平泉サミット」では、互いの市町村の歴史とまちづくりについて話し合い、

「歴史ある魅力的なまちづくりに取り合っている」と、年一回持ちまわりでサミットを開いていくことを決めました。

第二回目の今年は、「地域の活性化」をテーマに、和歌山県田辺市での開催となりました。

田辺サミットには、本村から三重賞村長、木村義光教育



参加市町村の重要施策を紹介し意見交換をした「サミット会議」

長、奈良県昭財政係長が出席しました。

サミット会議では、参加各

市町村の首脳が、それぞれのまちの概要と、まちづくりの核となる重要施策を紹介し、意見交換を行いました。

そのなかで三重村長は、「青森ヒバを活用した木材産業の活性化と安東文化のふるさとづくりによる地域の活性化」を強調しました。

また、今後は行政側の交流だけでなく、民間を含めた友好親善を深めることも話し合いました。

十六日には、弁慶市を見学し、次回のサミットは岐阜県白鳥町で開催することに決まりました。

田辺市の弁慶市

田辺市の弁慶市は、武蔵坊弁慶にゆかりのある「開鶏神社」境内において、毎月第三日曜日が開かれています。事業主体は、第三セクターで組織している「紀南ふるさと開発センター」が当たっていますが、かつては、馬場だったところ約百店の両側に店を配置、食料品だけでなく、衣料品や雑貨類等も出品され、にぎわいをみせていました。



▲毎月第3日曜日開かれています田辺市の「弁慶市」
◀「弁慶市」を視察する参加市町村長



グリーン賞を受賞した
高橋信男さん
全国でただ一人の受賞
でした。

林野庁林政記者クラブが、新聞週間の記念行事として毎年贈呈している「グリーン賞」の受賞者として、本村の高橋林業土木社長・高橋信男さん(59歳)が選ばれ、十月十八日松田林野庁長官らの出席のもと、東京・港区の「麻布グリーン会館」で贈呈式が行われました。

高橋さんは、昭和四十年に

叙勲 おめでとう

白川さんに
勲五等瑞宝章



青森ヒバの需要拡大 認められる

—高橋さんにグリーン賞—

た。

六十三年度、第二十九回グリーン賞は、青森ヒバの需要需要増りおしが課題とされているなかで、県産ヒバの利用、普及に努めたことが評価され、高橋さんが全国でただ一人の受賞でした。

この間、国際見本市や林野庁が主催する「森林の市」にヒバ製品を出品しているほか、県内外のデパートでは展示会を開くなど、品質に対する評価も年々高まっています。九州、北海道、東北から関東、九州など、全国各地から注文が殺到しています。



木工場内に造られている「ヒバの館」には、多数の木工加工品が展示されています。

「文化の日」の十一月三日付で、昭和六十三年秋の叙勲が発表されましたが、元市浦村長白川治三郎さん(73歳)が、勲五等瑞宝章を受賞しました。

白川さんは、五所川原市管内小学校の校長を歴任後、昭和四十六年五月十八日から三十二年間、市浦村長として在職、村コミュニティセンター、老人生かがいセンター、B&G財団市浦海浜センター建設等、各般にわたって村勢の振興に寄与、地方自治、教育功労が認められた受賞となりました。

高橋林業土木を設立し、土木治山事業を中心に事業の拡大をはかり、昭和五十一年からは、青森ヒバの生産を担うため素材生産に着手。以来、青森ヒバの需要拡大やPRを積極的に行ってきた。

協元婦人会に 国民年金社会保険庁長官表彰



三重村長(右)から表彰状と記念品が伝達されました

昭和六十三年度の国民年金全国表彰で、協元婦人会が優良納付組織として、名譽ある社会保険庁長官表彰を受賞しました。

協元婦人会は、国民年金制度が発足した昭和三十六年から納付組織として活動を始めたが、数々の実績と功績をあげてきました。

その結果、地域住民の年金に対する理解と協力も得られ、現在の複雑かつ、多岐にわたる年金行政もスムーズに行われています。

今回の協元婦人会に対する表彰は、単に一納付組織に対するだけでなく、地域住民の理解と協力に対するものと考へます。

ステイックさばきあざやか

脇元・はまなすチームが優勝

郵便局長杯 ゲートボール大会 親善深める目的で



慣れた手つきでゲートボールを楽しむお年寄りたち

第一回市浦村郵便局長杯ゲートボール大会が、十一月十二日午前九時から市浦村B&G体育館に、村内各地方から約七十人のお年寄りが参加して開かれました。

村内には、相内地区に市浦郵便局があるほか、脇元、十三地区にそれぞれ郵便局があります。郵便、貯金、保険業務などの感謝と、地域の

親善を深めよう」と、ゲートボール大会を計画しました。

大会では、脇元郵便局の藤田功局長が、大会を計画した目的を説明したあと、「ゲートボールの技を競い合い、互いの親善を深めよう」とあいさつ、木村義光教育長は「ゲートボール人口は年々増えており、県民体育大会では公式種目になるなど、その広がりにはめざましいものがある。日ごろ鍛えた技を力一杯発揮し、楽しい一日を過ごしてください」と激励しました。

続いて、佐藤雄さんが「大会を機に相互が親睦を深めより楽しくプレーします」と選手宣誓をして競技に入りました。

二十分の制限時間を定めての競技には、郵便局チームを含めて十チームが参加しましたが、日ごろの練習実績や技術には及ばず、郵便局チームは、シルバーパーに圧倒されていました。

競技の後は、トロフィーを片手に懇親会を開き、競技内容を反省したり、次回への意気込みを語るなど、和やかな一日を過ごしていました。

郵便局では、これからもゲートボール大会を続けることにしており、次回からは参加チームや応援団も増やしたいと話していました。

◆競技の結果は次のとおり。

第一位 脇元はまなす、第二位 相内吉野、第三位 相内四、第四位 十三、第五位 相内三、第六位 十三、第七位 脇元さばきあ、第八位 太田、第九位 相内一、第十位 郵便局

◇個人最優秀賞 齊藤正彦(はまなす) ◇優秀賞 亀倉チサ(はまなす) ◇同い丁子谷サタ(吉野) ◇敢闘賞 佐藤正志(相内四)、白川リエ(晩

合格おめでとう



商工会珠算検定試験

おみごと中居さん一級合格



第80回商工会珠算検定試験は十一月十九日午後一時から各小学校において行われましたが、十三小学校六年の中居真裕子さんみごと一級に合格しました。

今回の受験者数は、五十五名ですが、合格者は次のとおりです。

▽一級 中居真裕子(十三小)

▽二級 村元真紀、三和真澄、成田太陽子(辻分珠算塾)

▽三級 山田雅史、成田麻美、山田真奈美、寺谷かおり、佐藤那穂子(辻分珠算塾)

▽四級 笹山悦子、成田千夏子、成田泰平(辻分珠算塾)

▽五級 山田さくら、太田真由美、葛西理恵(辻分珠算塾)

相坂静代(浦田塾)

▽六級 梶浦麻理子、豊島正樹、白川聖子(浦田塾)

▽七級 白川和希、相川麻史枝、上野光代(浦田塾)

▽八級 相川高昭、村上すずえ(浦田塾) 吉田望美(辻分珠算塾)

▽九級 秋月加寿美、相川さゆり、小山内めぐみ、相坂友人(浦田塾)

第四十回人権週間

明るく豊かな地域づくり

特設人権相談所開設

十二月四日から十日までは「第四十回人権週間」です。昭和二十三年十二月十日第三回国際連合総会で世界人権宣言が採決されて以来、国連ではこれを記念し、毎年十二月十日を「人権デー」と定め、各国では、基本的人権尊重の精神を徹底させるための記念行事が行われます。

わが国では、「人権デー」を最終日とする一週間を「人権週間」と定めています。本年は、世界人権宣言四十周年に当たるとして記念し、青森地方事務局と青森県人権擁護委員連合会では、次の強調事項を掲げ、県民の皆さんに人権尊重思想の大切さと呼びかけています。

◇国際化時代にふさわしい人権意識を育てよう。

◇いじめ、体罰の根を絶とう。

◇女性の地位を高めよう。

◇障害者の完全参加と平等を實現しよう。

「人権週間」にあたり、私

たち一人ひとりが、人権について考え、明るく豊かな社会をつくりましょう。

なお、毎日の生活の中で、お困りのときは、青森地方事務局五所川原支局、または、

お近くの人権擁護委員にご相談ください。相談は無料で、秘密は厳守します。

市浦村の人権擁護委員は次の方々です。

氏名	住 所	電話番号
成田 水吉	市浦村大字融元	六二一三五二五
相坂 舞刀	市浦村大字十三	六二一〇七四
下山 時敏	市浦村大字相内	六二二二九三

◆特設人権相談所開設

▼と き 十二月十五日

▼と ころ 十三公民館

◆相談担当者
人権擁護委員
法務局職員



明るく豊かな社会……。ゲートボールを楽しむお年寄りたち

—灯油の取り扱いに注意しよう— 火事の原因は 慣れからくる油断

危険である灯油の性質を改めて確認し、正しい取り扱いを心がけたいものです。

引火しやすい 灯油の「蒸気」

灯油をはじめとする石油類は、一度火がつくと、勢いよく燃えあがることはよく知られています。しかし、灯油などの石油類から発生する蒸気が空気より重く、床や床下にたまりやすいことはあまり知られていないようです。

この蒸気は一定濃度以上存在すると引火しやすい性質を持つているので、灯油は火の気のない、風通しのよい所に置きましょう。

火がついても

水は厳禁

「水と油という言葉のとおり、灯油と水よりも軽く、両者が溶け合うことはありません。もし灯油が燃え上がったとしても、消火のために水をかけるとはやめましょう。水は火を消すどころか、灯油を四方に広げ、火災を大きくしてしまふからです。灯油を使用するときは、万一に備えて、消火器具をすぐ使える場所に置いておくことも必要です。

交通死亡事故多発非常警報発令中!!

事故防止に協力を! 11月に入って県内では、13人(20日現在)が交通事故で死亡しており、昨年1年間の死者(128人)を3人上回っています。

情報をお寄せください

おしらせ

役場の電話は62-2111



すこやか日記

成田英雄さん(脇元)
 長女 春美ちゃん
 成田 治さん(脇元)
 長女 仁美ちゃん
 おゆうぎ会で「はなかんざし」
 をおどったの!!

村営住宅入居者を公募

月額 15,000円

村営住宅の入居者を公募しています。入居希望者は昭和63年12月15日までに市浦村役場、脇元、十三出張所へ申し込んでください。

◆村営住宅の場所

市浦村大字相内字岩井81

◆村営住宅の種類・戸数

第2種、2戸

◆村営住宅の使用料

月額 15,000円の子定

◆村営住宅の入居資格

▶ 村内に住所又は勤務場所を有する者であること。

▶ 現に同居し、又は同居しようとする親族があること。

▶ 現に住宅に困っていることが明らかなる者であること。

▶ 次に掲げる基準の収入のあること。

100,000円以下

◎ 4人世帯の場合(給与所得者1人、扶養親族3人)

月収 279,999円以下

◆申込み方法

役場(出張所)備付けの村営住宅入居申請書を提出すること。

◆申込み者多数の時は、選考のうえ入居者を決定します。

◆入居の時期

昭和63年12月25日ごろの子定。

なお、詳しいことは村建設課へお問い合わせください。

電話 62-2111 内線23

書留を勤務先にも配達 郵便局 不在郵便物のサービス改善

郵便局では、不在のため配達できなかった書留やゆうパックなどの不在持ち戻り郵便物を、受取人の希望で勤務先などへ無料で配達するサービスを10月1日から実施しました。

勤務先(配達郵便局区外でも可)が、配達郵便局区外の郵便局に配達するのは、特別配達やなまものを内容とするゆうパックを除く郵便物が対象となります。

詳しいことは、お近くの郵便局へおたずねください。

交通事故相談を ご利用ください

▶ やっかいな冬の事故

冬は道路の状況が常に変わるので、いったん事故が起こると、事故当時の状況をめぐって被害者と加害者の間で紛争になりやすいものです。事故の状況によって双方の過失割合が決められますが、当事者同士の主張がまとまらないうと解決が長びいてしまいます。

▶ 真っ先に相談所へ

不幸にして事故に遭ったら話し合いの前に、まず、県の交通事故相談所へ相談してください。県交通事故相談所は中立公正な立場から、過去の判例に基づいてアドバイスします。専門の相談員と弁護

士が無料で相談に応じ、個人の秘密は厳守しますので、安心してご相談ください。電話や手紙での相談も受けています。

◎受付日・時間

日曜・祝日を除く毎日、午前9時から午後4時(土曜日は正午)まで。

◎弁護士による相談

本所=毎週土曜日、支所=毎月第1・第3土曜日。いずれも午前10時から正午まで。

▶市町村の窓口でも

損害賠償の交渉に当たったの基本的なことは、市町村の住民相談の窓口でも相談を受け付けています。県と市町村は交通事故被害者援護のために相談のネットワークをつくっていますので、お困りの方は各市町村の窓口もご利用ください。

区分	住所・電話番号
本所	青森市新町二丁目3-1 県庁舎別館1階 (0177)22-1111 内線5440-1
弘前支所	弘前市蔵主町4 県合同庁舎別館 (0172)36-8721
八戸支所	八戸市尼内町鴨田7 県合同庁舎2階 (0178)27-5111 内線313



除雪作業にも

かんばる

佐藤勝秀さん
相内18歳



四月一日より市浦村役場に勤務しています。

役場では、建設課に所属し主に土木関係の仕事をしています。

春には、十三小学校隣の道路改良工事に係わり、事前発掘調査(琴湖岳遺跡)で、建設課の人たちと一緒に、発掘グリット、トレンチの配置、測量遺構の実測等をやります。その後も道路改良、ため池の整備と、いろいろな事業に携わっています。

これから雪の季節を迎え、除雪作業も加わることになります。今年、新しいスノーローダーも購入する予定になっていますので、私も除雪活動がスムーズに行えるように、がんばります。



青森県のお父さんは日本一平均寿命が短いことを存じですか?以前は脳卒中、がん、心臓病の順で亡くなる人が多かったのですが、今ではがん、心臓病、脳卒中となりました。このように脳卒中は年々減っています。市浦村においても脳卒中死亡ゼロを目標にしていますが、なかなかゼロを続けることはむずかしいものです。脳卒中は寒い地方

に多くみられます。だからといって、市浦村は寒さが厳しいからかたがないいよ、などといっているわけではありません。日本で最も寒いのは北海道では脳卒中が少ないのです。それは暖房の方法や、家の中を暖かく保つための工夫がされていて、冬を暖かく過ごすことができるからと考えられています。私たちが長い間、塩辛い食べ物を含んで血圧を上げない努力をしてきたこと、はもちろんです。加えて、暖房設備をよくすること、住宅の保温をよくすることも、冬の脳卒中の予防に大きく影

■平均寿命ベスト5

		昭和50年		昭和60年	
男	全	71.79	全	74.95	
	国	73.19	沖	76.34	
	東	72.95	津	75.91	
	神	72.63	長	75.64	
	奈	72.39	福	75.61	
女	全	72.32	香	75.61	
	国	77.01	東	75.60	
	静	77.01	京	80.75	
	全	78.96	国	83.70	
	沖	77.89	能	81.60	
性	東	77.85	島	81.47	
	神	77.76	本	81.37	
	奈	77.64	岡	81.31	
	山		山		
	岡		山		

■平均寿命ワースト5

		昭和50年		昭和60年	
男	青	69.69	青	73.05	
	森	70.17	大	74.01	
	田	70.20	高	74.04	
	知	70.27	鹿	74.09	
	子	70.54	鹿	74.09	
女	岩	75.86	長	79.84	
	貴	76.00	大	79.90	
	児	76.12	青	79.97	
	島	76.20	茨	79.98	
	田	76.31	和	80.13	

寒さ対策は「暖身」でなく「暖房」を

お年寄りや血圧の高い人がいる家庭では、トイレや浴室

響すると思われます。

などの暖房も考え、家の中の温度差を少なくする工夫をしましょう。

窓の戸籍



- お誕生
- 宮本 真紀子(相内) 達也
 - 越谷 めぐみ(十三) 悟
 - 葛西 悠(昭元) 久芳
 - 木村 美里(十三) 朋之
 - 石岡 奈未可(磯松) 隆雄
 - 長尾 南(十三) 信一
 - 高橋 和也(十三) 徹一
 - 新岡 歩美(十三) 壽行
 - 秋田 谷昌也(相内) 修三
 - 鳴海 恭輔(太田) 彰雄
 - 高木 翔太(昭元) 洗二

こゝろには赤ちゃん

葛西武和さん(昭元)
2女陽子ちゃん(5ヵ月)
ヤケドをしないように気を付けているんです。だって、ハイ、ハイのときが、いちばんあぶないんだって!!



- 村山 美由紀(相内)
- 坂本 明(相内)
- 長内 茂(相内)
- 工藤 広行(相内)
- 加藤 恵子(相内)
- 奈良 敏一(太田)
- ご結婚
- 相内 洗二

- 小山内 さと(磯松) 70歳
- 小島 幸子(相内) 74歳
- 三和 幸子(相内) 43歳
- 秋田 谷アヨ(昭元) 86歳
- 相内 ソナ(相内) 69歳
- 葛西 ハナ(昭元) 64歳
- 小寺 やさ(昭元) 91歳
- 佐藤 多三吉(昭元) 85歳
- 小山 志(相内) 76歳
- 千葉 きみ(昭元) 70歳
- 小山 マサ(昭元) 84歳
- 工藤 銀次郎(相内) 76歳

おひらき

- 山本 透(太田)
- 横山 喜代子(中里)
- 菊地 俊(宮城)
- 菊和美子(相内)
- 濱田 睦夫(十三)
- 小林 美由紀(青森)
- 能上和浩(秋田)
- 石原 桂(昭元)
- 小笠原 敏子(昭元)
- 加藤 則子(北海道)